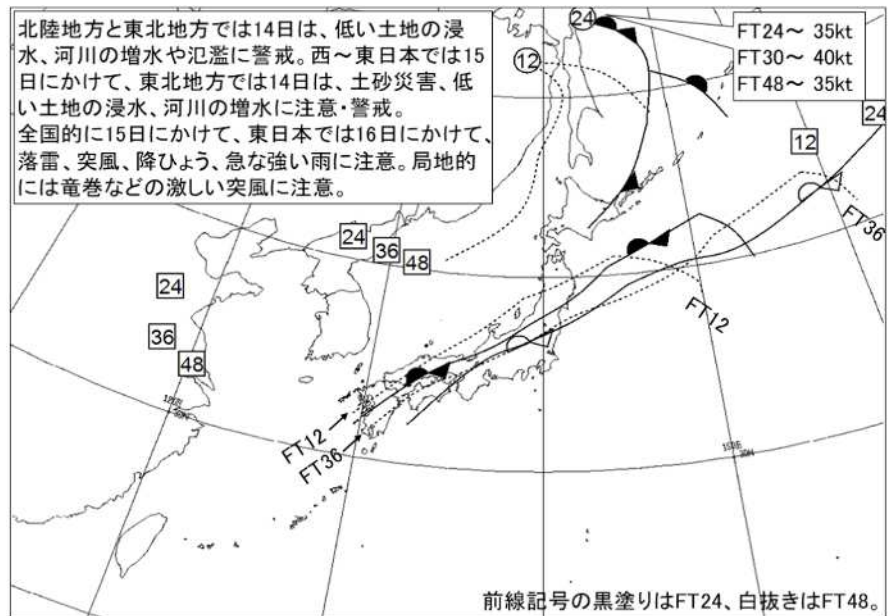


1. 実況上の着目点

① 500hPa 5580m付近のトラフに対応した低気圧からのびる寒冷前線が、沿海州を東進。寒冷前線付近で雷を検知。

② 500hPa 5820m付近の強風軸に対応した前線が、西日本の日本海側～東北地方～三陸沖にのびている。前線付近で激しい雨を解析し、多数の雷を検知。

③ 500hPa 5940m以上の上空の亜熱帯高気圧が西～東日本の太平洋側を覆っている。亜熱帯高気圧の南の日本の南では上層寒冷渦が西北西進。小笠原近海、南



主要じょう乱解説図

西諸島、西日本の太平洋側では対流が活発で、激しい雨や非常に激しい雨を解析。多数の発雷を検知。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の寒冷前線は14日夜には北海道地方を通過する。低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる。北海道地方では14日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

② 1項②の前線は15日にかけてゆっくり本州上を南下する。1項③の上空のトラフや上層寒冷低気圧の接近に伴い上空寒気の影響が強まり、前線付近から南側で広く大気の状態が非常に不安定となる。14日は前線上の2つのキンクが東北地方や北陸地方付近を東北東進し、キンク付近の下層収束によって降水が強まるおそれがあり、15日にかけては、1項③の亜熱帯高気圧が東へ後退し、高気圧の縁辺の下層暖湿気が太平洋側から西～東日本の前線に向かって流れ込み、前線の活動がより活発となるおそれがある。このため、15日にかけて前線付近とその南の太平洋側では所々で雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある。北陸地方と東北地方では14日は、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。西～東日本では15日にかけて、東北地方では14日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

③ 1項③の上層寒冷低気圧は15日にかけて南西諸島付近を北上してその後不明瞭となる。地上でも15日にかけては南西諸島付近が気圧の谷となる。上空寒気や気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となる。南西諸島では15日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。

④ 500hPa 5820m付近のトラフは16日には西日本に進み、2項②の前線は16日夜には西からリシスしつつ、伊豆諸島付近へ南下する。下層の湿りが残る東日本では、日中の気温上昇の影響もあって大気の状態が不安定となる所がある。東日本では16日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

①雨量(06時からの24時間)：東北100mm。

②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無

発表の予定はない。